

地震の後に、火を出さない。

～春の火災予防運動と、3.11から学ぶ「通電火災」対策～

春の訪れを感じる3月。この時期は「春の全国火災予防運動」の期間であるとともに、東日本大震災の記憶を語り継ぐ大切な月でもあります。大規模震災において、揺れによる被害と同じくらい恐ろしいのが「火災」です。あの日、多くの教訓を残した「地震火災」から家族を守るための備えを、今一度見直してみませんか。



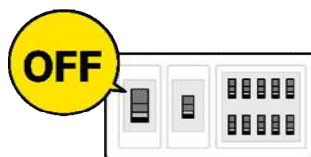
【震災の教訓：忘れてはいけない「通電火災」】

地震火災の原因の多くは、実は「電気」にあります。

停電が復旧した際、倒れた電気ストーブや傷ついた配線に再び電気が流れることで発生する「通電火災」。避難して無人になった家で火が上がるのを防ぐには、以下の対策が不可欠です。

◆「**感震ブレーカー**」の設置：強い揺れを感知すると自動でブレーカーを落としてくれる、地震火災対策の「切り札」です。後付け可能な簡易タイプもあります。

◆避難時の「**ブレーカー落とし**」を習慣に：「逃げる時はブレーカーを下げる」。これを家族全員の合言葉にしましょう。



【家具の固定は「火災予防」でもある】

「家具が倒れないようにする」のは、下敷きにならないためだけではなく、

◆**ストーブへの転倒防止**：本棚が倒れてストーブのスイッチが入ってしまう事故を防ぎます。

◆**避難経路の確保**：倒れた家具が邪魔で、消火器が取り出せない、出口へ行けない…という事態を防ぐことが、迅速な初期消火につながります。



感震ブレーカー
後付けタイプ

わが家の「通電火災」リスク診断

～地震のあとの火災を防ぐ、30秒の目視テスト～

地震で停電し、避難した後に電気が復旧…そのとき、無人の家で火が上がるのが「通電火災」。今、お部屋を見渡して、以下の3点を「30秒」でチェックしてみましょう。

①「もし今、大きく揺れたら？」チェック

- ☐ 電気ストーブや観賞魚用ヒーターの周りに、倒れてきそうな本や、燃えやすいカーテン・衣類はありませんか？
- ☐ 水槽や花瓶が、テレビやPCなどの電化製品の近くにありませんか？
(水がこぼれてショートする原因になります)



②「足元の電気コード」チェック

- ☐ 電気コードが家具の下敷きになっていたり、無理に曲がったりしていませんか？（地震の揺れで家具が動くと、コードが断線し、復旧時に発火する恐れがあります）
- ☐ コンセントにホコリが溜まっていませんか？（湿気を吸ったホコリは、火花を散らす「燃料」になります）



③「ブレーカー」チェック

- ☐ 分電盤（ブレーカー）の場所を、家族全員が把握していますか？
- ☐ 「感震ブレーカー」は付いていますか？（付いていない場合、避難時に「手動で」ブレーカーを落とす訓練が必要です）

【診断結果】チェックの数によって診断します。

- ◆**0個の方**：素晴らしい！防災意識が非常に高いです。この状態を維持しましょう。
- ◆**1～2個の方**：今すぐ改善しましょう！少しの配置換えで、火災リスクは激減します。
- ◆**チェックが3個以上の方**：危険信号です。万が一の震災時、お家が火災に巻き込まれる可能性が高いです。

プロのワンポイント・アドバイス

避難時にブレーカーを落とすのを忘れてしまいそうな方は、「玄関のドアノブに『ブレーカー落とした？』と書いたシールを貼る」など目に見える形で対策するといいですよ。アナログですが、これが命を救います。

